

INFORMATION

次回ミニ企画

お正月展「虎視眈々」

令和3年12月21日(火)-1月23日(日)

2022年は寅年。例年年末年始に干支にまつわる白描画を展示しておりますが、虎のみを描いている白描作品は、所蔵作品では1点しか確認されていないため、今回は「虎」に関連する作品を集めて展示いたします。



新商品情報！◆絵金御朱印帳◆

令和3年11月中旬ごろより販売予定



絵金の芝居絵屏風を前面に印刷された御朱印帳が完成！

高知製本さんにより企画、製造、販売。

売上一部は、「赤岡絵金屏風保存会」に寄付され、作品の修理・保全活動にあてられます。※販売は11月中旬ごろより

◆商品詳細◆

蛇腹式御朱印帳 / 白奉書 48ページ / 大判サイズ (12×18センチ)

《使用作品》全4種類

- 伊達競阿国戯場 累
- 浮世柄比翼稻妻 鈴ヶ森
- 義経千本桜 鮎屋
- 花衣いろは縁起 鶯の段



《販売場所》

◆絵金蔵ミュージアムショップ

◆絵金蔵 HP 通販ページ <https://www.ekingura.com/shop/index.html>

◆高知製本 HP <https://kochiseihon.com/>

◆Yahoo ショッピング店 御朱印帳の製本所直売店 <https://store.shopping.yahoo.co.jp/kochiseihon/>

◆高知製本ショップ楽天市場店 <https://www.rakuten.co.jp/kochiseihon/>

絵金蔵

高知県香南市赤岡町 538



kingi



藏



絵金蔵公式ホームページ
<https://www.ekingura.com/>

■開館時間 9:00-17:00 (入館は 16:30まで)

大人 520円 (470円) / 高校生 300円 (250円) 小・中学生 150円 (100円) ※()内は15名様以上の団体料金

毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合は翌平日)

車で 高知市はりまや橋から約40分 / 高知龍馬空港から約10分 / 高知自動車道南国ICより約30分

JRで 高知駅からあかおか駅まで約40分、駅より徒歩10分

■電話/FAX 0887-57-7117

よもやま話に花が咲く。えきんぐらがお届けする小ネタ袋。

蔵通信

四二号
2021.10

発行：絵金蔵運営委員会
発行日：2021年10月19日

第四一話 麗しの女武道

絵金百話 シリーズ

【企画展】

麗しの女武道 ひこさんごんげんちかいのすけだち

彦山権現誓助剣 FIGHTING WOMAN

会期：令和3年10月19日(火) - 令和3年12月19日(日)

新型コロナウイルス感染拡大の防止のため協力をお願いいたします。
絵金蔵の詳しい感染症対策についてはホームページをご覧ください。

マスクの着用

適切な距離を保っての鑑賞

手指の消毒

■入館料

■休館日

■アクセス

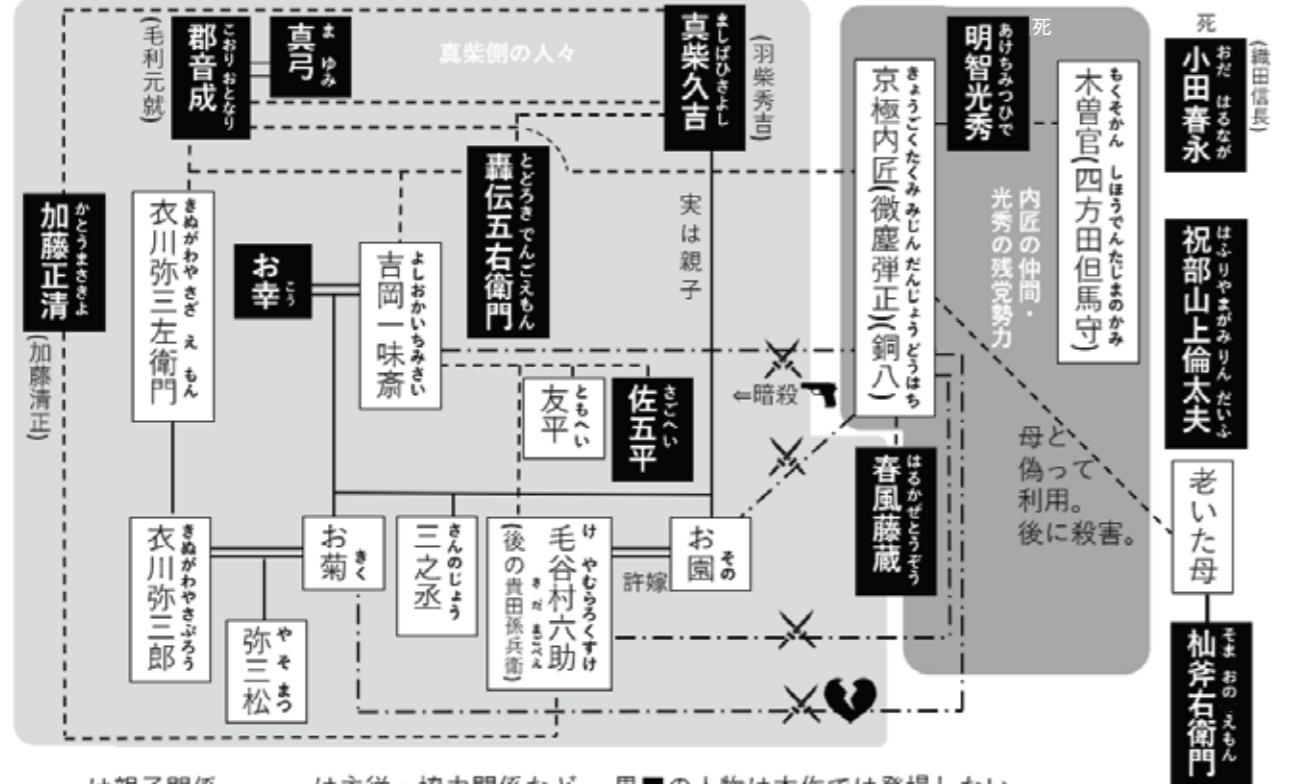
■電話/FAX

絵金百話

第41話 彦山權現誓助剣

画寸37.0×50.6 cm マクリ(11枚綴り) 紙本墨画
香南市 個人蔵

人物相関図



—は親子関係 ---は主従・協力関係など 黒■の人物は本作では登場しない
—は婚姻関係 ——は敵対関係など

芝居の詳しい内容は次項から⇒

《概要》 今回ご紹介する作品は和紙に芝居絵を墨書きし、11枚綴りで冊子状にまとめたもので、「マクリ」と呼んでいます。原作の浄瑠璃（文楽）は天明6年（1786年）10月に大坂・竹本座で初演され、梅野下風・近松保蔵作の十一段からなる長編の時代物です。背景に豊臣秀吉の朝鮮出兵や明智光秀の残党の暗躍が絡んでおり、あるいは「敵討巖流島」が大きく影響しているとも考えられ、主役の一人・六助が宮本武蔵、敵・内匠が佐々木小次郎と捉えることができます。

物語は、長門国郡家の剣術指南役である朗客吉岡一味斎が、娘お菊に横恋慕する極悪非道の京極内匠を退け、また剣術試合でも負けた内匠が一味斎に恨みをもって闇討ちしたことを発端に展開します。一味斎の敵討を遂げるため旅に出た娘たちは、幾多の試練を乗り越え、一味斎の弟子の毛谷村六助（娘お園の許婚）を後見として、ついに一味斎の妻お幸と娘お園、孫弥三松（お菊の息子）が内匠を討つという筋書きです。

近年の歌舞伎では大抵、九段目にあたる「毛谷村」の場を中心に、お園と六助の敵討として上演されます。当館収蔵の作品には「毛谷村」の段がありません。そもそも描かれなかったのか、あるいは現在までに失われてしまったのかもしれません。そこで今回は、本作に登場する「女武道・お園」に注目します。一味斎の娘お園は臼を軽く持ち上げるほどの怪力で、浄瑠璃や歌舞伎では珍しい、武芸に優れた女性です。女ながらに敵に斬りかかる姿はまさに女武道。「瓢箪棚の場（表紙）」では鎌を手に応戦するなど、随所で魅力が際立ちます。夫や家を支える献身的な様で描かれる女性が多い中、敵討ちを遂げる娘お園や妻お幸、返り討ちにあうお菊らの、自らの力で思いを遂げようと奮闘する姿は、当時の女性のみならず、男性たちをも熱狂させたのではないかでしょうか。

見ごたえある作品として現在へ伝わっている本作をどうぞお楽しみください。

まだあります!
戦う女性お園

他の絵師が描いた「お園」がでてくる作品たちをご紹介いたします。



お園たちがついに内匠を討つシーン。
ここではお園の妹お菊も登場しています。
見事に刀を操る姿はまさに女武道！強いぞお園！

「毛谷村孝行男」という本の一場面。
中央に虚無僧姿のお園が、尺八をこん棒のように振り上げ、数人の侍を相手にしています。
浄瑠璃では180cmの高身長に、美しさを兼ね備えた女性として登場します。

◎参考書籍・ウェブサイト

- ◆浄瑠璃名作集 上 有朋堂書店
- ◆名作歌舞伎全集 第六巻 東京創元新社
- ◆文楽ハンドブック 株式会社三省堂
- ◆歌舞伎登場人物事典 白水社
- ◆国立劇場上演資料集〈120〉第35回文楽公演 彦山權現誓助剣 国立劇場調査養成部芸能調査室
- ◆国立劇場上演資料集〈449〉第232回歌舞伎公演 通し狂言 彦山權現誓助剣 国立劇場調査養成部芸能調査室
- ◆歌舞伎 on the web. <https://www.kabuki.ne.jp/>
- ◆The Barbara Curtis Adachi Bunraku Collection <https://bunraku.library.columbia.edu/plays/78/>
- ◆<https://www.ntj.jac.go.jp/kokuritsu/h30/bunraku45.html>

九段目「毛谷村六助住家の段」

約束通り、六助は弾正にわざと負ける。その後内匠を討ち損ねたお園が彦山の麓の毛谷村に辿り着き、許婚の六助に出会い、そして甥と母にも再会する。弾正が内匠と気づいた六助も仲間となり、ともに敵討に向かう。

右図は実際には上演されないが、弾正が、六助に勝つために自分の母と偽って利用した老母（木こり斧右衛門の母）を、口封じのために殺す場面。



十段目「立浪館仇討の段」

小倉城主の立浪家に乗り込んだ六助は、内匠と戦うと剣が折れ、宝剣蛙丸をもつ内匠が明智の残党であり、久吉を討つために立浪家に入り込んだとばれてしまう。

敵討の前に、六助は主人定めのつもりで久吉の家臣らと相撲をとることに。38 戦目の試合で加藤正清の家臣に敗れ、貴田孫兵衛と改名し、正清の家臣となる。

十一段目「大詰」

**【お園】
親の敵妹が敵、
一時にはらす恨の刃、
首さし延べて請取れ**

小倉城下に六助が乗り込んだ後、ついにお園・お幸・弥三松は内匠を討ち、敵討の本懐を遂げる。

- 終 -



他に描かれている「彦山權現誓助剣」

こちらは「須磨浦の段」で登場する、京極内匠とお菊と息子弥三松の顔、さらに雨が降る夜の須磨浦の様子全体を左上に描いたと思われる白描作品です。月代が伸びた「むしり」という状態の髪型の内匠は、目つきも鋭く、悪役らしさがあります。一方、お菊の顔は小さく2点描かれていることから、習作らしく検討していることがうかがえます。



画寸48.2×34.0 cm/白描/紙本墨画/香南市個人蔵

芝居の解説

作品解説は、国立劇場小劇場で行われた第35回文楽公演の演目名と「淨瑠璃名作集 上(有朋堂書店)」を中心に、さらに「名作歌舞伎全集 第6巻(東京創元新社)」も参考しながら制作しています。「名作歌舞伎全集」は昭和42年10月国立劇場の上演台本を元にしているため、絵金の時代と内容が多少異なる場合も考えられます。ご了承ください。

淨瑠璃名作集で書いているところの、大序・二段目・四段目・八段目・九段目・十段目のマクリは現在確認できません。あらすじのみ、簡単にご紹介します。

※「淨瑠璃名作集 上(有朋堂書店)」の引用においては旧字体は新字体に変更しております。

大序 「住吉浜辺の段」

春風藤藏らが、参詣した住吉大社で京極内匠と出会う。
郡音成の妻真弓らが同じ場所で休憩すると、異國の大船と白馬を連れた祝部山上倫太夫が現れ、真柴久吉が住吉大社へ寄付した馬の嘶なきが止まないと言う。三韓から来た木曾官がその理由を、久吉の朝鮮出兵に神が怒っているからとすると、真弓は反論し、木曾官はお供衣川弥三郎と争いになりかける。そこで真弓は自ら(代理でお菊)は東へ、木曾官は西へ白馬を引けた方が勝ちにしようと提案、勝った真弓に呪文などで海を荒れさせて対抗する木曾官は、動じず海を鎮める真弓に恐れおののき、郡家の家臣へ願い出る。

二段目 「彦山權現社前の段」

彦山權現社前で、郡家の家臣たちは殿の鷹の餌用の鳥を逃したとして、六助を捕らえようとする。抵抗する六助のあまりの強さに、様子を見ていた郡家の家臣・轟伝五右衛門は、軍師になるよう誘うが、母を思う六助は断る。その後、高良の神の使いに母親孝行と武芸を認められ、武芸奥義の秘巻を受けられる。実はこの使いは、郡家の家臣・一味斎であった。



三段目 「郡音成館の段」

朝鮮出兵の名代という名誉を受けた郡音成は、無礼講の祝宴をしている。音成の剣術指南役・吉岡一味斎の娘お菊は、郡家の家臣弥三郎と密かに一子をもうけており、横恋慕する内匠を一味斎がとがめる。

御前試合でも敗れた内匠は、一味斎を討つことを決心する。



三段目「郡音成館の段」

光秀の宝剣蛙丸を盗もうとした木曾官は、実は光秀の残党と知れ、内匠が介錯する。最期に内匠が光秀の遺児だと告げる。

その他に、久吉を討てと伝えて自害、立ち聞きした一味斎の暗殺を計画するという筋書きもある。

四段目「山口八幡の段」

新しく建てる山口八幡の前で、京極内匠と春風藤蔵が会い、一味斎暗殺の計画をたて、藤蔵が銃を内匠に渡す。後日談として内匠は、木曾官からもらった銃で、駕籠に乗っていると思われる一味斎を暗殺したことがわかる。



五段目「一味斎屋敷の段」



一味斎の屋敷で、妻お幸と、息子で盲目の三之丞、お菊と弥三郎らが集って端午の節句を祝っている。そこへ、お園と、一味斎の死骸が帰宅。



【お園】
男といへどわしからは、
よつほど小兵に見るからが、
手練の程も青侍、稽古さんせ

剣術指南役ながら暗殺された一味斎に非があるとし、音成の家臣衣川弥三左衛門に、家族は立ち退きを命じられる。納得いかないお園は捕り手を軽々かわして反抗、実はお園の力量をはかっていた音成は、腕を見込んで敵討を許す。

六段目「須磨浦の段」



須磨浦で、一味斎の娘お菊とその息子弥三松、お供の友平が敵討の旅をしている。お菊のために友平が駕籠を呼びに先へ行ったところへ、偶然内匠が現れる。

内匠と出会ったお菊は息子を隠し、実は惚れていたと嘘をついて殺そうとするが、返り討ちにあって殺されてしまう。

七段目「瓢箪棚の段」



▶瓢箪棚で戦うお園と銅八（内匠）。お園は鎖鎌で激しく立ち廻り、決着がつかぬまま幕切れとなる。

くぐるは神力くさり鎌、
ちやうくはつしと請止め、
今打ちかけたる虎乱の太刀、
もしや尋ねる敵か
【お園】

弥三松を連れた友平はお園に再会し、敵の証拠となる臍の緒書（守り袋）を託すと、お菊の死の責で切腹。お園が池に臍の緒書を投げ込むと水氣立ち、宝剣蛙丸が現れるが、刀の靈力に導かれた銅八が蛙丸を手にする。

その刀で近くにある瓢箪（敵・真柴家の馬印）を切るという、象徴的な場面が上演されることもある。

八段目「杉坂墓所の段」

豊前国彦山の麓。善良な青年毛谷村六助は武術に優れ、勝った者は小倉藩の剣術指南として召し抱えると触れ書が出てる。六助は、浪人微塵弾正（内匠）に、仕官して母に孝行するためにわざと負けてほしいと乞われ、快く承諾。帰り道で幼い男の子を連れた若党佐五平が内匠側の武士に襲われているのを助けると、佐五平は幼子（弥三松）を託し息絶える。